

●情報モラル指導モデルカリキュラム(大目標・中目標レベル)

分類	Level-1 小学校1・2年	Level-2 小学校3・4年	Level-3 小学校5・6年	Level-4 中学校	Level-5 高等学校
1. 情報社会の倫理	a 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ			情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす	
	a1-1: 約束や決まりを守る	a2-1: 相手への影響を考慮して行動する	a3-1: 他人や社会への影響を考慮して行動する	a4-1: 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する	a5-1: 情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす
	b 情報に関する自分や他者の権利を尊重する			情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する	
	b1-1: 人の作ったものを大切にすることを大切にする	b2-1: 自分の情報や他人の情報を大切にすること	b3-1: 情報にも、自他の権利があることを知り、尊重する	b4-1: 個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する	b5-1: 個人の権利(人格権、肖像権など)を理解し、尊重する
2. 法の理解と遵守	c 情報社会でのルール・マナーを遵守できる			社会は互いにルール・法律を守ることで成り立っていることを知る	
		c2-1: 情報の発信や情報やりとりする際のルール・マナーを知り、守る	c3-1: 何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない	c4-1: 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	c5-1: 情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する
			c3-2: 「ルールやきまりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する	c4-2: 情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る	c5-2: 情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する
			c3-3: 契約行為の意味を知り、勝手に判断で行わない	c4-3: 契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する。	c5-3: 契約の内容を正確に把握し、適切に行動する
3. 安全への知恵	d 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる			危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する	
	d1-1: 大人と一緒に使い、危険に近づかない	d2-1: 危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-1: 予測される危険の内容がわかり、避ける	d4-1: 安全性の面から、情報社会の特性を理解する	d5-1: 情報社会の特性を意識しながら行動する
	d1-2: 不適切な情報に出合わない環境で利用する	d2-2: 不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-2: 不適切な情報であることを認識し、対応できる	d4-2: トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	d5-2: トラブルに遭遇したとき、さまざまな方法で解決できる知識と技術を持つ
	e 情報を正しく安全に利用することに努める			情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける	
		e2-1: 情報には誤ったものもあることに気づく	e3-1: 情報の正確さを判断する方法を知る	e4-1: 情報の信頼性を吟味できる	e5-1: 情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる
	e1-2: 知らない人に、連絡先を教えない	e2-2: 個人の情報は、他人にもらさない	e3-2: 自他の個人情報、第三者にもらさない	e4-2: 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる	e5-2: 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる
4. 情報セキュリティ	g 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る			情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける	
		g2-1: 認証の重要性を理解し、正しく利用できる	g3-1: 不正使用や不正アクセスされないように利用できる	g4-1: 情報セキュリティの基礎的な知識を身につける	g5-1: 情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる
	h 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる			情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる	
		h3-1: 情報の破壊や流出を防ぐ方法を知る	h4-1: 基礎的なセキュリティ対策が立てられる	h5-1: 情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる	
5. 公共的なネットワーク社会の構築	i 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ			情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる	
		i2-1: 協力し合ってネットワークを使う	i3-1: ネットワークは共用のものであるという意識を持って使う	i4-1: ネットワークの公共性を意識して行動する	i5-1: ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する

※コードについて(例, a1-1)
【1桁目の文字】
a~i: 大目標項目

【2桁目の数字】
校種・学年(Level1~Level5)
1: Level1(小学校低学年: 1~2年生)
2: Level2(小学校中学年: 3~4年生)
3: Level3(小学校高学年: 5~6年生)
4: Level4(中学校(高等学校を含む場合もある))
5: Level5(高等学校)

【3桁目の数字(ハイフンの後の数字)】
大目標項目内の一連番号

たとえば、コードa1-1は次を表す。
大目標項目a1: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ(小学校1~2年生)
中目標項目a1-1: 約束や決まりを守る(小学校1~2年生大目標項目a1の1番目の中項目)

※上記の表の枠内の背景色(肌色、薄緑色)の意味合い
カリキュラム(肌色: 小学校、薄緑色: 中学校)